

## 第15回 山本哲也さん（徳島大学）

日本心理学会若手の会コラムリレーでは、若手のみなさまに、ご活躍されている領域や普段の生活についてご紹介いただきます。

第15回目は、山本哲也さん（徳島大学）にご執筆いただきました。

「青いお空のそこふかく、海の小石のそのように、夜がくるまでしずんでる、昼のお星はめにみえぬ。見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ。」

これは、童謡詩人である金子みすゞの「星とたんぼぼ」という詩の一節です。この詩の中にあるような「見えぬけれどもある」ものを対象として、私はこれまで「抑うつをもたらす脆弱性の可視化」と「脆弱性に対する介入方法の創出」を主な研究テーマとしてまいりました。専門は臨床心理学と認知神経科学です。心理臨床実践を行う傍ら、脳波、脳血流動態、認知機能、唾液中ストレスホルモンなど、さまざまな指標を用いた研究を行ってまいりました。病因が可視化されたことによって数多くの病気に対する治療方法が開発されたように、上記のような研究を通じて、心理療法の効果の増大や適用範囲の拡大を目的とした、新たな観点からの介入方略を提起できたらいいなと考えております。

山本哲也さん（Tetsuya YAMAMOTO）

【ご所属】 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【ご連絡先】 t.yamamoto@tokushima-u.ac.jp

【その他】 現在は、ピッツバーグ大学をはじめ、国内外の研究機関と連携をしながら研究を進めております。上記の研究テーマについて、私どもで何かお役に立てることや、ご質問などがございましたら、お気軽にご連絡いただければ幸いです（異なる研究領域・業種の方からのご連絡も大歓迎です！）。